第 8 講　全国的武家政権の確立と衰退

PART1 鎌倉幕府の滅亡と建武の新政

Chapter 1　鎌倉幕府の滅亡

目標
二分された皇統について知ろう。
鎌倉幕府滅亡の要因について知ろう。

1　皇統の対立

①　皇統の対立

13 世紀後半，没した**後嵯峨上皇**〔法皇〕の 2 子が，

皇統や院政を行う権利，皇室領荘園や知行国の相続をめぐり対立を深めた。

A　〔1　　　　　　　　〕

後深草天皇系，後白河上皇の長講堂領を経済基盤とする。

B　〔2　　　　　　　　〕

亀山天皇系，鳥羽上皇の八条（女）院領を経済基盤とする。

②**文保の和談**（**1317** ～ 18 年）

幕府は以後の皇位継承に介入しないかわりに，

10 年ごとの〔3　　　　　　　　〕を強引に決定。

しかし，両統ともに十分な合意に達せず，かえって反幕府感情が高まった。

③〔4　　　　　　　　〕**の親政**（1321 年～）

1318 年　持明院統の花園天皇の後を受け中継ぎ的役割で**大覚寺統から即位**

※朱子学〔宋学〕の大義名分論を信奉，延喜・天暦の治にならい親政を目指す。

1321 年　父である後宇多法皇の院政を停止

※記録所を再興し親政を開始。

自らの子孫のため皇位継承の決定権を幕府から取り戻そうとした。

④幕府支配の弱体化

A　得宗専制政治への反発と幕府内の内紛

14 代執権北条高時が田楽・闘犬にふける間に権力を握った**内管領長崎高資**の

専横と賄賂政治が，外様御家人のみならず高時の不満も招き幕府が不安定化。

B　畿内と周辺の**悪党**たちによる新秩序要求運動

2　鎌倉幕府の滅亡

1324 年　正中の変（後醍醐天皇による討幕計画）

※密告により失敗。日野資朝は佐渡に流されるが，天皇と日野俊基は赦免。

1331 年　元弘の変（後醍醐天皇による討幕計画）

※密告により失敗。日野資朝・俊基は死罪，天皇は京を脱出するが山城国笠置山を脱出後捕縛され廃位。幕府は**持明院統**の〔5　　　　〕を擁立。河内国の悪党〔6　　　　〕が赤坂城で挙兵

1332 年　後醍醐天皇が幕府により**隠岐**に配流

大和国吉野で後醍醐天皇の皇子**護良親王**が挙兵

※河内国千早城で楠木正成も再び挙兵。

1333 年　後醍醐天皇が隠岐を脱出

※名和長年により伯耆国船上山に迎えられる。

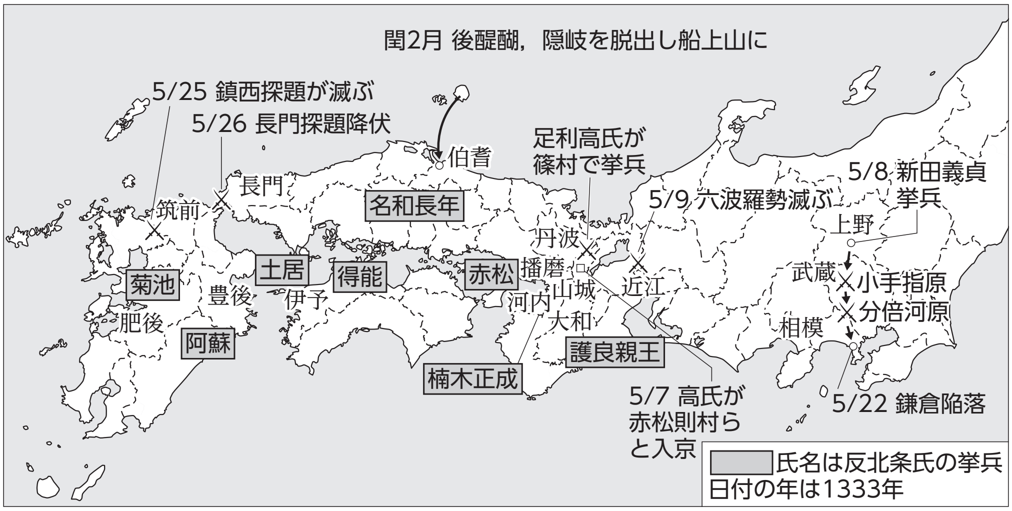
〔7　　　　〕（のち尊氏）

・赤松則村らが**六波羅探題**を攻略

〔8　　　　〕・足利義詮らが**鎌倉幕府**を攻略

※最後の得宗〔9　　　　〕，16 代執権守時は自害し**鎌倉幕府滅亡**。

後醍醐天皇



鎌倉幕府の滅亡への途

まとめ
後嵯峨上皇の２子が持明院統と大覚寺統に分かれ対立した。
得宗専制政治のゆきづまりが御家人たちの裏切りを招き，幕府は滅亡した。

Chapter 2　建武の新政

目標
建武政権が天皇親政の理想を追求できなかったのはなぜだろう？
建武政権が崩壊したのはなぜだろう？

1　建武政権のしくみ

①〔[1]　　　　　　　　〕(1333 ～ 36 年)

幕府・院・摂関も否定し，天皇親政が理想。

しかし，**国司・守護の併置**に見られるように，実質は公武二元支配の政権だった。

A　中央（京都）

天　　皇　〔[2]　　　　　　　　〕（持明院統の光厳天皇は廃位）

〔[3]　　　　　〕　重要政務

雑訴決断所　所領関係の裁判（鎌倉幕府の引付衆を継承）

恩　賞　方　恩賞事務

武　者　所　京都の治安維持（頭人は**新田義貞**）

B　地方

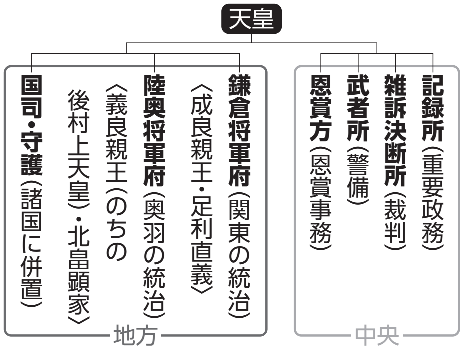
征夷大将軍　**護良親王**

陸奥将軍府　義良親王を**北畠顕家**（護良親王の家臣）が補佐し東北統治にあたる

鎌倉将軍府　成良親王を**足利直義**（尊氏の弟）が補佐し関東統治にあたる

国　　司　国ごとに 1 名の公家を天皇が直接任命

守　　護　国ごとに 1 名の武家を天皇が直接任命



建武政権職制表

2　新政の混乱と建武政権の崩壊

①新政の混乱→『**二条河原落書**』による風刺

A　後醍醐天皇の独裁→政務の停滞

「今の例は昔の新儀なり，朕が新儀は未来の先例たるべし」―『梅松論』より―

〔[4]　　　　〕を絶対万能とし濫発。特に「所領個別安堵法」は武家社会の慣習である年紀法〔20 か年年紀法〕を無視，訴訟が爆発的に増加した。

B　**公家優位の政治**→武家の反発・離反

討幕の恩賞では公家・寺社・一部の武士を優遇。大内裏復興計画や

そのための銅銭・紙幣発行計画など，諸国の武士に重い負担感が発生。

C　伝統的勢力の冷遇→摂関家などの反発

D　混乱に乗じた負担増大による農民の反発→『若狭国東寺領太良荘民訴状』など

E　建武政権内部の対立→三派に分かれる

あ　後醍醐天皇派→新田義貞・楠木正成・名和長年ら

い　護良親王派→北畠親房・顕家ら

う　足利尊氏派→足利直義・高師直・赤松則村〔円心〕・佐々木高氏〔道誉〕ら

②建武政権の崩壊

1334年　足利尊氏が天皇父子の仲を裂き征夷大将軍護良親王を鎌倉に幽閉

1335年　中先代の乱

※信濃国で挙兵した北条高時の子**時行**〔中先代〕が鎌倉を攻略，

敗れた足利直義は脱出時に護良親王を殺害。

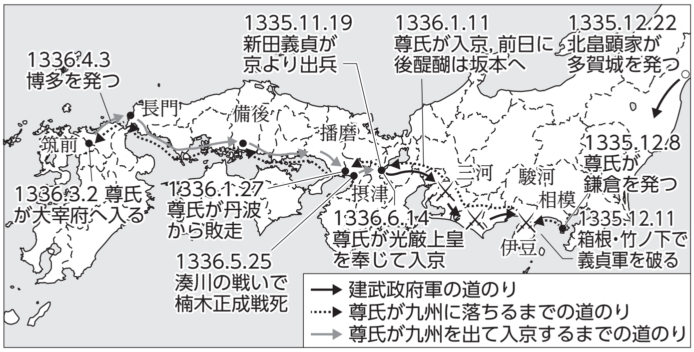
※足利尊氏が天皇の許可なく鎌倉へ下り鎮圧，のち**建武政権からの離反**を決意。

1336年　新田義貞を破った足利尊氏が入京するが北畠顕家に京を奪回され九州に敗走

※のち光厳上皇の院宣を得た尊氏が東上，摂津国**湊川の戦い**で**楠木正成**を破り

再入京。**持明院統**の**光明天皇**を即位させ，**建武式目**を制定。（＝**北朝**の成立）

※**大覚寺統**の後醍醐天皇は，京から大和国［5　　　　］へ脱出。（＝南朝の成立）



建武政権と尊氏の争い

まとめ

鎌倉時代に公武二元支配が根づいていたため，

後醍醐天皇の理想とする天皇親政はできなかった。

後醍醐天皇の独裁に武家など諸勢力が反発したため，建武政権は崩壊した。

第 8 講　PART 1　確認問題

1 持明院統の花園天皇の後を受け，
中継ぎ的役割で大覚寺統から 1318 年に即位した天皇はだれか。

① 後深草天皇　② 光厳天皇
③ 後嵯峨天皇　④ 後醍醐天皇

2 14 代執権北条高時のとき，幕府の実権を握ったのはだれか。

① 長崎高資　② 赤松則村
③ 楠木正成　④ 足利高氏

3 後醍醐天皇による討幕計画の一つで，密告によって失敗に終わり，
日野資朝・俊基が死罪となったのはどれか。

① 中先代の乱　② 元弘の変
③ 正中の変　④ 観応の擾乱

4 後醍醐天皇が隠岐に配流された後，大和国吉野で挙兵したのはだれか。

① 護良親王　② 足利高氏
③ 足利義詮　④ 新田義貞

5 建武の新政において，京都で治安維持を担ったのはどれか。

① 恩賞方　② 記録所
③ 雑訴決断所　④ 武者所

6 鎌倉将軍府で成良親王を補佐したのはだれか。

① 足利直義　② 新田義貞
③ 北畠親房　④ 北畠顕家

7 信濃国で挙兵した北条時行が鎌倉を攻略した出来事を何というか。

① 観応の擾乱　② 正中の変
③ 元弘の変　④ 中先代の乱

8 1336 年に即位した持明院統の天皇はだれか。

① 光明天皇　② 後深草天皇
③ 亀山天皇　④ 後村上天皇

第 8 講　PART 1　確認問題 解答

1 解答：④　朱子学〔宋学〕の大義名分論を信奉し，延喜・天暦の治にならって親政を目指した。

2 解答：①　専横と賄賂政治が横行し，外様御家人のみならず執権**北条高時**の不満も招き，幕府が不安定化した。

3 解答：②　**後醍醐天皇**は京都を脱出するが，山城国笠置山で捕縛され廃位とされた。③の**正中の変**も後醍醐天皇による倒幕計画で，日野資朝は佐渡に流されるが，天皇と日野俊基は赦免となった。

4 解答：①　**護良親王**は後醍醐天皇の皇子。②の**足利高氏**はのちの尊氏で，六波羅探題を攻略した。③の足利義詮と④の**新田義貞**は鎌倉幕府を攻略した。

5 解答：④　①の**恩賞方**は恩賞事務，②の**記録所**は重要政務，③**雑訴決断所**は所領関係の裁判にあたった。

6 解答：①　**足利直義**は足利尊氏の弟。②の**新田義貞**は武者所の頭人である。④の**北畠顕家**は陸奥将軍府で義良親王を補佐した。

7 解答：④　**北条時行**は高時の子で，敗れた足利直義は脱出時に護良親王を殺害した。

8 解答：①　**光明天皇**の即位により**北朝**が成立した。後醍醐天皇は大和国の吉野へ逃れた。